五輪書から学ぶ生き方

宮本武蔵が死を悟り、洞窟に入って書いたと言われる五輪書。約400年の時を経ても尚、国内外で読まれるこの本にはビジネスや人生の生き方に通ずる知識が切り刻まれています。

そして五輪書の中で宮本武蔵は、「道を行う法」と言う生きて行く上での心がけを９ヶ条、記述しました。９ヶ条の中から私が教訓としれ受け取った心がけを３つの動画に分けて、４つご紹介したいと思います。

１．銀の弾丸は無い

銀の弾丸とは、その弾丸一発で悪魔を撃退できると言う意味合いから生まれた比喩表現であり、何かに対する万能な解決方法と言う事をします。

しかし、実際問題、何かに対する万能な解決策などほとんどの場合、無いわけで、存在もしない銀の弾丸を探して時間を浪費する人で世の中は溢れ返っているのではないでしょうか？

宮本武蔵は９ヶ条の最初の２ヶ条で、

１．邪ではないことを思う所

２．道を鍛錬する所

と記述しており、存在もしない万能な解決方法を探そうとはせずに、日々能力やスキルを上げる事に注力せよ！と言っているのではないでしょうか？

２．武器を増やせ

道を行う法の三ヶ条目と四ヶ条目には

・広く諸芸にも触れる事

・諸々の職業の道を知る事

と記述されています。

これは、多くの学問や職業を体験する事で、多角的な視点を持つ事が出来るようになると言う事を謳っていると私は解釈しました。

例えば、Googleの人事トップは、多くの職業に触れる事で、一つの職業だけに注力して生きてきた人よりも、様々な角度から課題解決が出来るようになるとおっしゃってます。

そして、宮本武蔵自身も、決闘の時は、刀以外のあらゆる武器を駆使して敵を退治したと言われています。

武器を増やし、あらゆる武器を使いこなせるようになり、その諸々（多く）の武器の中から一番、得意な武器を見出して、磨き上げる事が大事になるでしょう。

３．役に立たない事をしない事

言うまでも無く、非常にシンプルな心がけですが、この過ちを犯してしまっている人がどれだけ世の中に居る事か…

新聞やテレビ、スマホのニュースに目を通して、役に立った事がどれだけあったでしょうか？一つや二つの耳よりな情報のために、何千時間とあなたの人生が削られたでしょうか。

役に立つ事。それは、あなたが望む事に対しての努力であったり、お仕事や何らかの活動を通して人の役に立つ事でもあるでしょう。

しかし、現代の労働者の多くは、出社して、メールに目を通して、ミーティングに参加し、メールに返信して、仕事が残ったから残業して、やっと家に帰っても、仕事の疲れで役に立たない行事に人生を削られるわけです。

明日からは生産性があって人の役に立つ仕事をするぞ！と意気込んで出社しても、メールやミーティングの狭間でいつものように溺れてしまうわけです。

ただ、役に立つ事をするのは簡単ではありません。ただ、役に立つ事をするためには、役に立たない事に時間を掛けている場合では無いのです。だから、シンプルに役に立たない事をしなければ良いわけです。役に立たない事をしなければ、後は役に立つ事をするために努力するだけですから。

最後に、作家のアニー・ディラードの格言を一つ「How we spend our days is how we spend our lives」

行動する前に考えてみて下さい。「これは役に立つ事なのか？」と。